

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年1月24日

協議会名: 三条市地域公共交通協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	
越後交通株式会社	福沢線 (福沢～長沢駅跡)	三条市内の下田中学校及び大崎学園後期の卒業生に対し、利用時間、利用方法、循環バスや自転車駐車場の案内などを記載したチラシを配布し、周知を図った。(R5.3)	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B 福沢線については、目標に掲げた日平均利用者数2人に対し、1.3人/日と前年度の実績より、2.3人減少し、目標を達成できなかった。高校生通学ライナーバス(東三条駅～県央工業高等学校)については、目標に掲げた日平均利用者数15人に対し、23.8人/日と前年度の実績を6.9下回る数値となったが、目標を上回った。福沢地区の高校生の減少及び下田地区から三条高校及び県央工業高校への進学者の減少があったものと推察される。	下田地域の高校生の移動手段の確保といった観点から利用促進を図るよう、引き続きチラシの配布やホームページ等で情報発信に努める。
	A		計画どおり事業は適切に実施された。			
越後交通株式会社	市内循環バス三条循環線 (市内)	路線バスと循環バスの時刻表と経路図をセットにした「三条市バスマップ」を引き続き窓口に設置し、情報発信に務めた。(R5.4～)	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標に掲げた日平均利用者数が39人に対し、48.7人/日であり、前年度の実績から12.5人/日減少したものの、目標を上回った。※各コースの内訳(三条循環線 目標25人、実績38.1人)、(井栗線 目標8人、実績5.4人)、(嵐南コース 目標6人、実績5.2人)令和4年10月からバスの再編に伴う路線見直しで一部路線で減便や路線短縮を行ったため、利用者が減少したものと推察される。	循環バスについて、令和4年10月からのバスの再編に伴う路線見直しで全体の利用者数は増加傾向にある。また、利用促進策として、路線バスと循環バスの時刻表と経路図をセットにした「三条市バスマップ」を引き続き窓口に設置し、情報発信に努めていく。
	市内循環バス井栗線 (市内)		A	計画どおり事業は適切に実施された。		
	市内循環バス嵐南コース (市内)		A	計画どおり事業は適切に実施された。		

株式会社エス・タクシー	三條市デマンド交通 (三條市内)	デマンド交通をより多くの方から利用していただけるよう、高齢者が集まる場に足を運び、デマンド交通の制度の概要や利用方法、停留所等について話をする出張説明会を21回開催した。(R4.10～R5.9)	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B	土日も含む全日運行について、目標に掲げた日平均利用者数が180人に対し、168.1人/日(前年度は162.8人/日)であり、目標を下回った。 また、土日の運行について、目標に掲げた土曜日の日平均利用者数40人、日曜日の日平均利用者数15人/日に対し、土曜日が71.9人/日、日曜日が44.5人となった。前年度の実績と比較して、土曜日が1.2人、日曜日が5.0人の増加となり、目標を上回った。 前年度(令和3年10月～令和4年9月)より、数値が少し上向いたものの、コロナ禍前の利用状況には戻っていない。	令和5年10月より市街地エリアにおいて、AIオンデマンドによるルート設定を行い、乗合率や利便性の向上を図った。今後も引き続き高齢者が集まる機会を捉えたデマンド交通出張説明会において、デマンド交通の使い方等も含めて丁寧に説明し、利用者の掘り起こしを図っていく。また、令和2年7月から運転免許証を返納した年に限り2人乗車時の料金が割引となる「おでかけパス」の購入費用を免除する取組を開始したため、その内容の周知に努めていく。(令和4年12月20日現在128人の利用者)
三條タクシー株式会社			A	計画どおり事業は適切に実施された。			
中越交通株式会社			A	計画どおり事業は適切に実施された。			
日の丸観光タクシー株式会社			A	計画どおり事業は適切に実施された。			

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和6年1月24日

協議会名:	三条市地域公共交通協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>市内の中でも山間地域の多い下田地区を始め三条市全域における交通空白地域を生み出さないためのバス等の公共交通の維持存続は極めて重要であることから、次の系統において運行確保を図っている。</p> <p>I 福沢線 下田地域の交通拠点である長沢駅跡までの枝線の存続が重要であり、特に高校生の通学手段として不可欠であることから、同路線の運行確保を図っていく。</p> <p>II 高校生通学ライナーバス 昭和59年度にJR弥彦線(下田地区)が廃止された同地区高校生の通学手段を確保することが重要であり、路線バス八木ヶ鼻温泉線を維持存続し、さらには、東三条駅で乗り換えて市内の高校(三条高等学校・県立工業高等学校)への乗り換えなしの移動手段として、貴重な交通体系であることから、引き続き、同路線の運行確保を図っていく。</p> <p>III デマンド交通 市内全域において、タクシー車両を活用して専用の停留所間をダイレクトで運行し、1日平均約168人、土曜日は1日平均約70人、日曜祝日は1日平均約45人の利用を得て当市における公共交通手段の中核として不可欠なものとなっていることから、今後も運行確保を図っていく。</p> <p>IV 市内循環バス</p> <p>■井栗線 主として井栗地区の小・中学生、高校生の通学手段として、また、東三条駅に接続することで新潟・長岡方面への通学に活用されており重要な交通手段となっているものの、効率的な運行を図るために、令和4年10月から経路を短縮し、東三条駅止まりとした。</p> <p>■三条循環線 新幹線駅である燕三条駅、国道8号沿線のショッピングセンターなどを経由し、三条市の主要な施設への移動手段として、1日5便、土日も運行するなど同バスの中心的な運行を担い多くの市民の足として必要であることから、今後も同路線の運行確保を図っていく。</p> <p>■嵐南コース 東三条駅の南側を循環するコースであり、嵐北コース同様総合病院、個人医院を複数経由するなど特に嵐南地域の住民の生活における重要な移動手段であり、今後も同路線の運行確保を図っていく。</p>